



神苑の決意

新年に寄せて

核なき世界と核なき日本を目指して

本号の内容

【新年に寄せて】核なき世界と核なき日本を目指して(木川智)：1 / 【解説】辺野古新基地埋め立て工事承認取り消し違法確認訴訟(西山徹)：2 / 【連載】『倭姫命世記』を読み解く①(柳凜)：4 / 【連載】アジア放浪記―タイ王国を見て皇国を尊ぶ①(仲村之菊)：6 / 活動報告：8 / 花瑛塾日誌：12 / 編集後記：12

「神苑の決意」

第三号(平成二十九年一月一日発行)
編集・発行・印刷
花瑛塾広報局

頒価：1部千円

新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い致します。

昨年十一月、多数の同志と共に花瑛塾を結成し、十二月には当紙「神苑の決意」を発行しました。われわれ花瑛塾結成に当たり、多くの方々に御助言と激励と御指導をいただきましたこと、心より御礼申し上げます。

結成当初は立ち上げとこれに関する諸事に忙殺されましたが、連絡事務所や宣伝車両なども整い、本年は、維新の先人の思想と行動に学び、これを継承するとともに、神道信仰・神道精神に基づき、修理固成の御業に参画するという花瑛塾結成の趣旨に基づき、本格的に行動を展開していく予定です。

また当紙も内容を日々充実させていく所存です。花瑛塾ともども引き続きの御愛読と御指導御鞭撻をいただきたく、お願い申し上げます。

葦津珍彦氏の核廃絶論

昨年五月、米国オバマ大統領は伊勢志摩サミット出席後、広島市の原爆資料館と原爆ドームそして慰霊碑を訪れ、献花と黙祷を行ったことが話題となった。このオバマ広島訪問は、戦後史に必ず残る大きな歴史的な出来事である。

葦津珍彦氏は、その論文「まづ核なき武装

「神苑の決意」 主筆 木川智

へ―終戦大詔の悲願継承せよ―」において、核兵器の残虐性と軍事情勢の変化から日本核武装論への疑問を呈すと共に、核兵器を許さず平和を希求する終戦の詔の強い意志から、日本の核なき防衛と世界的な核廃絶を訴えている。さらに葦津氏は、世界的な核廃絶の先導役に日本がなるべきだとも論じ、それは非核保有国の共感を結集させるものであり、日本の世界史的使命であると述べる。

現在、北朝鮮や中国の「脅威」なるものが一部において叫ばれ、こうした「脅威」を前に日本と国際世論がどのような動向を示そうが何ら現実的な有効性を持たないと嘲笑されるかもしれない。しかし、葦津氏は、同論文